



あなたの買うミッキーは中国労働者の過酷な労働で作られています

**ディズニーは水谷玩具労働者へ
正当な補償金を支払ってください！**

2015年初め、日本のディズニーランドで販売されるディズニーグッズを中国深センの工場で作っていた水谷玩具の労働者たちは、会社が中国工場を閉鎖しフィリピンへ工場移転することを知り、補償金について協議を求めましたが、会社は応じませんでした。

そこでやむなく、ストライキを行って会社の誠意ある対応を求めたところ、会社はいきなり警察の導入を要請、暴力的に対応しました。その後、深セン工場は閉鎖され、水谷玩具は、法律に決められた額よりもはるかに少ない退職金を支払うことでけりをつけようとしたのですが、今もなお200人近くが法律に規定された額の退職金や長期間不払いだった社会保障費の会社負担分の支払い・納付を会社に求めています。

日本では千葉県民、市民団体、千葉にある労働組合などで、東京ディズニーランドの運営会社・オリエンタルランドに対し、法律に則った補償金等を払うよう水谷玩具に働きかけることを文書で要請しましたが、回答をいただいていません。現在、香港・アメリカで水谷の労働者を支援するキャンペーンが準備されています。その一環として私たちも、東京ディズニーランドに対して水谷の労働者が法律に則った補償を得られるよう水谷に働きかけることを要請します。



水谷玩具労働者たちのストライキのようす

<経過>

水谷玩具は1997年に香港の水谷玩具（水谷保彦社長）によって設立され、他の日系企業同様に低賃金の移住労働者・農民工を雇用して操業をスタート、最盛期には1600人の労働者が働いており、その7割は女性だった。その後、中国沿海部の人手不足・賃金高騰もあり、2014年半ばから会社はフィリピンへの工場移転を徐々におこない中国工場での受注は減少。それにともない長時間あった残業は短縮され、労働者の生

活は困窮していった。

怒った水谷労働者400人は、工場移転の労使協議、退職金の計算方法、未払い賃金、会社が納付していない社会保険・住宅積立金の支払いなどをとめて、2015年1月16日から31日までストライキを実施。1月30日に労使双方の合意が成立したため、31日にストライキを中止して職場にもどった。しかし、2月1日、会社はその合意を破棄し、退職金を労働法の規定より安い、雇用年数×1000元（1万5千円）と一方的に通告してきたので、翌日2月2日から再びストライキに突入。会社は警察を導入し23人を逮捕し、そのうち4人の収監は長引いた。

4月にディズニー社が仲介に入り、退職金額を1年につき1000元から1500元にあげ、約200人の労働者が職場を去った。

*争議の詳しい経過は下記のウェブでみることができます。

<http://www.labornetjp.org/news/2016/0203china>

<http://www.chinalaborf.org/report/report15/report150123.html>

<http://www.chinalaborf.org/report/report15/report150201.html>

連絡先：yokohma-arc@jca.apc.org